

七条中学校だより10月16号

京都市立七条中学校
令和8年10月23日
発行:校長 林 秀雄

2050年の君たちへ2 クラスメイトの10人に1人が外国につながる時代

突然ですが、みなさんは外国にルーツをもつ人と話をしたり、一緒に活動したりした経験はありますか。京都は世界中から多くの観光客や留学生が訪れる国際都市です。清水寺や伏見稲荷大社、嵐山などを訪れる外国人観光客の姿は、今や日常の風景となっています。また、京都だけでなく日本全国で、工場や建設現場、病院や介護施設、飲食店など、さまざまな場所で外国人の方々が働いています。

現在、日本で暮らす外国人は320万人を超えています。そして今後、人口減少や人手不足が進む中で、外国人とともに学び、ともに働き、ともに社会を支えることが当たり前の時代になっていくと予想されています。調査では、2050年には外国人労働者が730万～1575万人（10人に1人）規模になる可能性も示されています。皆さんが社会の中心となる2050年には、学校や職場、地域社会の中で、今よりもはるかに多くの外国ルーツをもつ人々とともに生活している可能性が高いのです。

そこで、皆さんに考えてほしい問いがあります。「違いを認め合える人」と「違いを拒む人」、どちらが**未来で必要とされるだろう？**これからの社会では、異なる国籍や文化、言語、価値観をもつ人々が一緒に学び、働き、地域を支えていくことになります。そのとき本当に必要となるのは、英語が話せることだけではありません。もちろん語学力は大切です。しかし、それ以上に大切なのは、相手を理解しようとする姿勢です。

世界にはさまざまな文化があります。食事の習慣が違う人もいます。宗教によって大切にしていることが違う人もいます。家族のあり方や働き方に対する考え方もさまざまです。私たちはつい、「自分と同じ考え方が普通だ」と思いがちです。世界に目を向けると、「普通」は一つではありません。

例えば学校でも、友達によって考え方や感じ方は違います。同じ学級にいても、得意なことや好きなこと、価値観は一人ひとり異なります。その違いを認め合うことのできる人は、多様な社会の中でも成長し続けることができます。一方で、自分と違う考え方を拒んでしまうと、新しい学びや出会いの機会を失ってしまうかもしれません。

これからの時代に求められるのは、「違いをなくすこと」ではなく、「**違いを理解し、ともに生きること**」なのです。また、忘れてはならないことがあります。それは、「**国際化＝外国へ行くこと**」ではないということです。

今はインターネットを通して世界中の人とつながることができます。京都にしながら海外の文化や考え方を学ぶこともできますし、日本の魅力を世界へ発信することもできます。皆さんはすでに世界とつながる時代を生きているのです。

では、そのような未来のために、今何をすればよいのでしょうか。私は、まず身近なところから始めてほしいと思います。友達の意見を最後まで聞くこと。自分と違う考え方を否定せずに受け止めること。困っている人に声をかけること。仲間と協力して目標を達成しようとする。こうした行動は、一見すると国際化とは関係ないように見えるかもしれませんが、しかし、多文化共生の第一歩は、身近な人を理解しようとするところから始まるのです。

2050年の日本では、多様な人々と協力しながら新しい価値を創り出す力が求められるでしょう。そのためには、違いを恐れるのではなく、違いから学ぶ姿勢が大切になります。皆さんが生きる2050年の社会は、今よりもずっと多様で、世界と深くつながった社会になっているはずです。その社会を豊かで温かいものにできるかどうかは、これからの皆さんにかかっています。

最後に、もう一度問いかけます。**2050年、さまざまな国や文化をもつ人々とともに学び、働き、暮らす社会で、あなたはどのような行動ができる人になりたいですか。**未来の日本を支えるのは、違いを認め合い、互いを尊重しながら協力できる人です。その第一歩を、ぜひ今日からの学校生活の中で踏み出してほしいと思います。

データで見る2050年の日本

【現在と2050年の外国人人口の推移】

現在の日本

○在留外国人数 約320万人

○95の国と地域の人々が日本で生活

○外国人労働者数は年々増加傾向

将来の日本

○2050年外国人労働者が730万～1575万人

○人口減少による人手不足がさらに進行

○外国人とともに働く社会が当たり前になる

○多文化共生が社会の重要な課題となる

家庭学習を考える

前期学校評価アンケートでは、「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強をしていますか」という質問に対して、「全くしない」が13.7%、「30分より少ない」が16.8%でした。合わせると30.5%、およそ3.3人に1人が家庭での学習時間が30分以下という結果でした。もちろん、家庭での過ごし方は人それぞれです。部活動に励んでいる人、習い事をしている人、学習塾に通っている人、家のお手伝いや家族の事情など、それぞれに異なる生活があります。ですから、「中学生は毎日〇時間勉強しなければならない」と単純に言えるものではありません。

しかし、少し考えてみてほしいことがあります。もし家に帰ってから、スマホやゲーム、動画視聴などに数時間使っているのであれば、その時間の一部を学習に充てることはできないでしょうか。家庭学習は、何も何時間も机に向かうことだけが目的ではありません。授業で学んだことを復習したり、宿題を丁寧に取り組んだり、分からなかったところを調べたり、本を読んだりすることも立派な学習です。

学校の授業は一日で終わります。しかし、本当の学びは授業が終わった後も続いています。授業で学んだことを自分で振り返る時間を持つことで、理解は深まり、知識は定着していきます。そして、自ら学ぶ習慣は、高校進学や将来の仕事だけでなく、生涯にわたって自分を成長させてくれる大きな力になります。

まずは、「家庭学習をする時間がない」と考えるのではなく、「自分の生活の中で家庭学習の時間をどう生み出せるか」を考えてみませんか。

10分でも15分でも構いません。毎日続けることが大切です。今の自分の生活を見つめ直し、自分なりの学習時間を確保することから始めてみましょう。その小さな積み重ねが、半年後、一年後の自分を大きく成長させてくれるはずです。

台風への備えと警報の確認について

現在、台風30号が発生しており、今後の進路によっては週明けに近畿地方へ接近する可能性があります。まずは、皆さん一人ひとりが安全を最優先に行動してください。強い風や大雨による事故は、登下校中だけでなく、休日の外出時にも起こることがあります。不要不急の外出を控え、河川や水路、増水した場所には近づかないなど、自分の命を守る行動を心がけてください。

また、週明けは休日明けの登校日となります。台風の接近に伴い、警報が発表される可能性もありますので、本校の「**台風・地震等に対する非常措置（HPに掲載しています）**」について、今一度確認しておいてください。保護者の方とも登校の可否や連絡方法について話し合い、慌てることなく対応できるよう準備をしておきましょう。

自然災害は、いつ私たちの生活に影響を及ぼすかわかりません。だからこそ、日頃から正しい情報を確認し、自ら判断して行動する力が大切です。一人ひとりが安全への意識を高く持ち、週明けに元気な姿で登校してくれることを願っています。